



2024 年度
第 27 号

体育市民連帯 ニュースレター

1
サッカーアカデミー
児童虐待事件
嚴重な捜査と
再発防止が必要だ



2
『孫興民神話』に
隠されたスポーツ暴力
市民団体
孫ウンジョンを批判



3
スポーツアカデミー
管理の死角
児童虐待など
当局で監視を



4
「彼らの罪を明らかに」
22 歳のアスリートの死
古臭い「人権」を
引き出す



5
倫理センターの決定を
無視できないように
制度を
変えなければならない



6
崔スクヒョン以後
スポーツ倫理センター4年
懲戒要請履行率は
半分未満

大韓民国スポーツの

根本的变化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけませんか？



01 共同声明 2024. 7. 1

サッカーアカデミー児童虐待事件、嚴重な捜査と再発防止が必要だ



最近、サッカーアカデミーの指導者たちが児童虐待の疑いで検察の調査を受けていることが分かった。マスコミによると、今年3月の訓練中、ソンサッカーアカデミー所属のコーチは、児童たちにうつぶせの状態プラスチックコーナーのフラッグで太ももを殴り、他にも数回にわたって暴力と暴言があったと被害者たちは供述している。これまでスポーツ界の暴力終息に対して社会的合意がなされ、人権保護のための色々な制度的装置が作られたが、このような事件が再び起きたという事実には惨憺たる気持ちを禁じえない。

サッカーアカデミーの指導者は釈明文を通じてコーチと選手の間で先着順で走るのに遅れたら一発殴られることに合意したと主張する一方、「子供たちに対する愛が前提にならない言動と行動は決してなかった」と話した。これはこれまで繰り返されたスポーツ界の人権侵害事件での加害者たちの言い訳と大きく変わらない。むしろ彼らの人権感受性が非常に不足していることを証明するだけだ。

成功した選手になるために黙々と練習する児童たちと、彼らの首輪を握っている指導者は決して同等の地位にない。どうして彼らが体罰をめぐって同等な立場で賭けや合意ができるだろうか？ より一層怒りを感じる点は、この事件だけでなく多くのスポーツ暴力で指導者たちが「愛」と「訓育」を口実に暴力を行使するという点だ。訓練過程で培ってきた親密さのため、多くのスポーツ暴力被害者は暴力を暴力と認識できないまま暴力に露出したりする。他の私設サッカーアカデミーで似たような児童虐待がないとは限らない。「孫フンミン神話」に隠れて、選手として成功するために多くの児童青少年と保護者がスポーツ暴力を黙々と我慢しているかもしれない。

国連児童権利協約によれば、子供ならば誰もがすべての形態の虐待と放任、差別、暴力などから保護される権利を持つ。すべての子供には安全な環境で人権を保護され、サッカーを楽しむ権利がある。サッカー選手として成功するためという理由で、児童たちが大小の暴力に耐えなければならない文化とシステムは、この機会に必ず変わらなければならない。

そのために我々は次のように要求する。

- 一. 「ソンサッカーアカデミーは、被害児童の保護と支援のための対策を講じろ！」
- 一. 関係当局は、「サッカーアカデミー児童虐待事件に対して嚴重に捜査せよ！」
- 一. 大韓サッカー協会およびスポーツ倫理センターは、私設サッカーアカデミー内のスポーツ暴力に対して厳正な調査を実施せよ！

2024. 7. 1

文化連帯代案体育会、民弁（民主社会のための弁護士会）文化芸術スポーツ委員会、
スポーツ人権研究所、体育市民連帯

02 MBN 2024. 07. 02

『孫興民神話』に隠されたスポーツ暴力…市民団体、孫ウンジョンを批判



スポーツ市民団体が孫ウンジョン監督など児童虐待論難がふくらんだソンサッカーアカデミー指導者に向かって「人権感受性が非常に不足している」と批判しました。

昨日（1日）、文化連帯と民主社会のための弁護士会の会、文化芸術スポーツ委員会、スポーツ人権研究所、体育市民連帯は声明を出し、「これまでスポーツ界の暴力終息に対する社会的合意がなされ、人権保護のための様々な制度的装置が作られたが、こうした事件がまた起きたという事実に惨憺たる気持ちを禁じ得ない」と述べました。

彼らは特に、愛と訓育を口実に行われる暴力が正当化できないと批判しました。

ソン監督側は3月、海外転地訓練中に発生した幼少年選手に対する悪口および体罰などについて「子供たちに対する愛が前提にならない言動と行動は決してなかった」という趣旨で釈明しました。

これに対して市民団体は「この間繰り返されたスポーツ界人権侵害事件の加害者らの弁解と大きく変わらない」と指摘しました。

それと共に「成功した選手になるために黙々と訓練する児童たちと彼らの首輪を握っている指導者は決して地位が同等ではない」とし、「多くのスポーツ暴力事件で指導者たちが『愛』と『訓育』を口実に暴力を行使するという点でより一層怒りを禁じ得ない」と糾弾しました。

これらの団体はソンサッカーアカデミーに被害児童のための保護・支援対策準備を、関係当局にはこの事件に対する厳重な捜査を要求しました。

合わせて明後日（4日）ソウル麻浦区スペースエムで「ソンサッカーアカデミースポーツ暴力事件を通じて振り返る児童・青少年スポーツ人権の現住所」という主題で討論会を開催することにしました。討論会を通じて幼少年選手育成システムと今回の事態を巡る文化・法律的争点を確認する予定です。

今も「ソン・フンミン神話」を追って選手として成功するために多くの児童青少年と保護者がスポーツ暴力を黙々と我慢しているかもしれないという理由からです。

一方、サッカー韓国代表のソン・フンミン（トッテナム）の父親ソン監督とアカデミー所属の指導者2人が最近、児童福祉法上の児童虐待の疑いで送致され、検察の調査を受けたことが確認されました。

ソン監督は連合ニュースに送った立場文を通じて「告訴人の主張事実は真実とは異なる部分が多いので、アカデミー側は事実関係を歪曲したり隠したりせずに加減なく明らかにし捜査に積極的に協力している」としながらも「時代の変化と法で定める基準をキャッチできず、自分のやり方だけで子供たちを指導した点を反省する」と明らかにしました。

出典：<https://www.mbn.co.kr/news/society/5038407>

03 京郷新聞 2024. 07. 04

スポーツアカデミー管理の死角…児童虐待など当局で監視を



ソン・フンミン選手の父親ソン・ウンジョン監督が運営する「SON サッカーアカデミー」で起きた児童虐待論難に対して体育界市民団体が「明白な児童虐待」として「スポーツ界児童虐待は根絶されなければならない」と主張した。

文化連帯、民主社会のための弁護士会文化芸術スポーツ委員会、スポーツ人権研究所、体育市民連帯などは4日、ソウル麻浦区のあるカフェで「SON サッカーアカデミースポーツ暴力事件を通じて振り返った児童・青少年スポーツ人権の現住所」緊急討論会を開いた。

江原警察庁は4月、ソン監督などサッカーアカデミー関係者を児童福祉法上の児童虐待疑惑で検察に送致した。A君側は3月、アカデミー内でお尻をコーナーキック棒で殴られ、普段から悪口を言われるなど虐待行為があったとし、ソン監督などを告訴した。春川地検は2日、ソン監督とコーチ2人を初めて呼んで調査した。

討論会の参加者は今回の事件が「明白な児童虐待」だと話した。文化連帯代案体育会のチョン・ヒジュン執行委員は「事件の本質はソン監督とコーチ陣が児童に持続的に身体的・情緒的暴力を行使したということ」とし「指導者が幼い子供を殴って暴言を吐くスポーツ教育、血と涙で濡れたメダルはこの世からなくならなければならない」と話した。

出典：<https://www.khan.co.kr/national/national-general/article/202407042120015>

04 イデイリー 2024. 07. 03

「彼らの罪を明らかに」…22歳のアスリートの死、古臭い「人権」を引き出す



2020年7月3日、チュ・ナクギョン慶州市長は故崔スクヒョントライアスロン(鉄人三種競技)選手が長い過酷行為で命を絶った事件と関連し、加害者を告発する方針だと明らかにした。崔選手が所属していた慶州市庁トライアスロンチーム監督の職務を停止したのに続き、別の暴行加害者である運動処方士に対しても、市レベルの対応を決めたのだ。有望株だった崔選手が生涯を終えるまでには、どのようなことが起こったのだろうか。

入団前の高校生時代から数年間過酷行為

崔選手が2020年6月26日に亡くなった背景には、監督と主将選手などの苛酷行為に数年間露出した状況が存在した。2017年と2019年に慶州市庁所属の選手として活動した当時、普段より体重が増加したという理由でパン20万ウォン分を食べさせたり体重調節に失敗すれば3日間飢えるようにするなどの行為が代表的だった。

調査の結果、慶州市役所のトライアスロンチーム監督だった金某氏の犯行は、崔選手が公式入団する前から行われていたことが分かった。崔選手が2016年、高校生の身分で慶州市庁訓練に参加した時は、体重調節が上手でないとか、態度が気に入らないという理由で暴言と暴行を日常的に行った。また、同年の海外転地訓練では主将だったチャン氏の運動靴で頬を殴ったり、チャン氏がチェ選手に暴行を加えたことを黙認したりもした。

同期間、チャン容疑者は崔選手に悪口を言いながら胸ぐらを掴んだり、頭を殴ったり、他の選手に暴行を加えるよう指示したことが確認された。この他にも、崔選手が自分の気に入らないという理由で所属チームの選手たちを集めておいた後、頭を殴って肩を押したりもした。当時、チャン氏の暴行に露出された被害選手だけで11人に達する状況だった。

彼らの犯行は、崔選手が慶州市役所に入団した後も続いた。金氏は運動処方士のアン某氏に数回暴行された崔選手を訪ねて脅迫し、チャン氏と共に所属選手たちに向かって悪口と暴言を吐いたりもした。自分たちが望む「チームプレー」に従わないという理由で選手を訓練から排除した後、同僚選手たちに彼を引き離すよう指示する形で犯行を行ったのだった。

「チームドクター」と呼ばれたアン容疑者は、崔選手以外にも所属チームの選手数人に暴行を加え、過酷行為までしたことが分かった。彼は医師免許や理学療法士の資格証がなかったにもかかわらず、選手たちに医療行為をして治療費の名目でお金を受け取り、一部の選手たちにセクハラをしたことも調査された。

選手死亡後に実質的な措置・・・主要加害者の重刑確定

数年間、暴力行為に苦しめられた崔選手は、死亡する3ヵ月前に金氏をはじめ、アン氏、チャン氏とまた別の先輩選手の金某氏など4人を検察に告訴した。金氏らの影響力なら、自分が釜山市役所に移籍した後も不利益を受ける可能性があるという事実を甘受しても勇気を出したのだった。崔選手の家族側は、国家人権委員会に彼らの苛酷行為と関連した陳情を出したりもした。崔選手が亡くなる前日だった。

しかし、加害者に対する実質的な措置は、崔選手の死で事件が明るみになってから行われた。金氏とチョン氏には永久除名処分が下され、また別の加害選手1人には資格停止が決定された。金氏らは、関係当局の調査を受けている間、国会文化体育観光委員会常任委員会の緊急懸案質疑で、「崔選手に暴行および暴言を吐いたことはない」と証言し、袋叩きにあった。

慶州市体育会と管轄の慶州市に対しては、崔選手側が加害者に対する懲戒を要請したにもかかわらず、安易に対応した事実で特別監査が行われた。この過程で金氏が崔選手以外の他の選手たちに暴行し体育会で前・現職勤労者78人に4億4000万ウォンの退職金、休日手当などを支給しなかったことが確認された。また、大韓鉄人3種協会が崔選手の死亡4ヵ月前に被害事実を認知したにもかかわらず、直ちに対応しなかった事実が追加で明らかになった。市と協会が選手保護の役割をきちんと果たしていなかったことが立証されたわけだ。

以後、スポーツ界内外では人権問題解決のための対策が用意された。スポーツ人権侵害事件を統合して管理するスポーツ倫理センターが発足し、小・中・高校に在学する学生選手6万人余りに対する教育部次元の暴力被害全数調査がなされたのだった。政界は2次改正された国民体育振興法(いわゆる「崔スクヒョン法」)を発議して国会本会議で通過させ、「崔スクヒョン法」は2021年2月から施行されることになった。苛酷行為の当事者だった金氏らに対する法的処罰も遅ればせながらなされた。崔選手を含む所属チームの選手たちに直接過酷行為をした金氏とアン氏は暴行、詐欺などの疑いで起訴され、それぞれ懲役7年、懲役7年6ヵ月の確定を受けた。監督だった金氏と共に裁判に付されたチャン氏とまた別の先輩選手金氏には懲役4年、懲役1年に執行猶予3年が各々宣告された。

出典：<https://www.edaily.co.kr/News/Read?newsId=01098806638950912&mediaCodeNo=257&OutLnkChk=Y>

倫理センターの決定を無視できないように制度を変えなければならない



崔スクヒョン選手が亡くなって4周忌を迎えた26日、父親の崔ヨンヒ(59)氏に慶尚北道漆谷郡の某所で会った。もう4年経ったが、もどかしさは消えていない。2時間余り話をしていて崔氏は目頭を赤くし、再発防止対策については力を入れて話した。

崔さんは「警察、検察、国家人権委員会、慶州市庁、大韓体育会、連盟などに訴えても陳情を入れるまでもありませんでした。全然役に立ちませんでした。今考えると一番残念なのが被害者と加害者を分離させることでした。加害者側からスクヒョンの同僚たちに懐柔、脅迫、証拠隠滅の試みをしたが、それが一番大変でした」として、陳情すればするほど被害者がさらに途方に暮れる制度を指摘した。

そのため、いわゆる「崔スクヒョン法」(国民体育振興法改正案)が可決され、スポーツ倫理センターも発足した。しかし、依然として残念な気持ちはある。

崔さんは「体育会がスポーツ倫理センターの要請を無視する場合もあるそうです。「スクヒョン事件の時もそうでした。慶北体育会で第三者を通じて監督し、合意を促しました。体育会と連盟の間に形成されたカルテルがあったんです。それでもスポーツ倫理センターが調査をすれば頭が痛くなるという予防効果程度はあると思いますが、実質的な権限は不足しているのが現実です。倫理センターの懲戒要請を連盟が無視できないようにしなければならない」と述べた。

少しでも制度的な改善が行われたと考えた崔さんは娘が残した意味を続けるつもりだ。崔さんは「犠牲と言うのもそうだし、苦痛を受けてこの世を去ったじゃないですか。ただし、スクヒョンが事件以後、被害者、加害者分離が必要なこと、制度的に人権侵害問題を防止しようとするなどを継続することが私の役割ではないかと思います」として「奨学会でも、財団でも非人気種目で黙々と運動する人々を支援したい」と話した。

加害者に対する刑事処罰は全て終わったが、崔ヨンヒ氏と他の被害者は大韓トライアスロン連盟、大韓体育会、法務部と加害者を相手に損害賠償訴訟を請求した状況だ。崔さんは、損害賠償金の支給決定が下されれば、賠償金を財団や奨学会の設立に使う計画だ。

制度の問題にも言及したが、崔さんは個人的な物足りなさも持ち出した。

「今考えてみると、スクヒョンの話あまり聞いてあげられませんでした。スクヒョンも運動をやめようとしたんですが、やるまで一度頑張ってみろと言われてました。やめようとする理由を一度きちんと聞いてみようと言えよよかったのですが、それが本当に後悔になります」

崔さんは、運動する子どもを持つ親に伝えたい話とともに、指導者が変わらなければならないと強調した。

「指導者が必ず変わらなければなりません。選手の時の経歴、学校の時の経歴だけで、校内暴力があっても指導者をしていないじゃないですか。これからは研修院で6ヶ月程度の人格教育、人権教育も確実にした後には指導者資格証を発給しなければなりません。そして学校の体育指導者たちに対する礼遇も高めなければなりません。スポーツ関係者が惨めに暮らせば、それが学生たちにそのまま行くのです」

崔さんは最後に、マスコミに対する願いも打ち明けた。「4年前に、スクヒョンは事件が起きる前に、某マスコミに情報提供もしました。ところが報道されなかったし、取材をするのにも加害者の方を先にする

とすぐに口止めが続きました。ところが2週間が過ぎて、スクヒョンの事件が起きてから情報提供した報道機関から先に電話が来ました。問題にしなければならぬので理解はできますが、被害者の立場を考えていただければと思います。”

出典：<https://www.newsmmin.co.kr/news/104949/>

06 ニューズミン 2024.06.27

崔スクヒョン以後、スポーツ倫理センター4年、懲戒要請履行率は半分未満



崔スクヒョン選手がこの世を去って2ヵ月が経った後、国会は別名「崔スクヒョン法」（国民体育振興法一部改正法律案）を通過させた。それと共に2020年8月5日、文化体育観光部は傘下にあったスポーツ不正申告センター、大韓体育会クリーンスポーツセンター、大韓障害者体育会体育人支援センターなどを統合してスポーツ倫理センターを設立した。

スポーツ倫理センターは▲人権侵害調査と被害者保護▲懲戒情報システム運営▲不正および人権侵害予防のためのスポーツ倫理教育▲スポーツ人権実態調査▲人権監視官制度運営など5つの役割を受け持っている。この4年間、センターの運営を見守ってきた崔選手の父親崔ヨンヒさん（59）は、「スポーツ倫理センターがスクヒョン事件のためにできたので、期待が大きかった。初期に運営がうまくいかなかったが、少しずつ良くなっているようだ」と評した。

崔さんは、「倫理センターがこの4年間、少しずつ良くなっている」と評したが、依然としてセンターが抱えている宿題はある。1月、3ヶ月間の空白の末に新しく選任された理事長は2019年いわゆる「マジックコリア」論難で懲戒を受けた前歴があり、センターが調査して要請した懲戒に対する体育会の履行率は半分水準を下回っている。蔓延している人材問題はここも同じだ。

今年1月就任 新理事長懲戒履歴問題

パク・ジョン理事長、「訴訟の末に懲戒無効決定を受ける」

2023年の国政監査で様々な問題が指摘されて以来、3ヵ月間、スポーツ倫理センターは首長である理事長が空白状態だった。空白の末、文化体育観光部は今年1月17日、パク・ジョン新任理事長を任命した。パク理事長は水泳選手出身で水泳連盟副会長と韓国女性スポーツ会副会長を務め、現場と行政経験を備えており期待が大きかったが、疑問も提起されている。

パク理事長が2019年光州世界水泳選手権大会当時に起きた「マジックコリア」事件で懲戒を受けた前歴があるためだ。パク理事長は訴訟を経て懲戒が無効と判定されたと主張したが、懲戒情報システムを運営するスポーツ倫理センターの信頼性に問題が生じかねないという憂慮が提起されている。センターは2023年8月から体育会などと採用契約をする選手や指導者、審判および役職員の懲戒履歴を統合管理するシステムを運営している。

光州世界水泳選手権大会当時、水泳連盟の錯誤で我が国の国家代表選手たちは規定に合わないユニフォームと水泳帽を支給され、これを矯正する過程でユニフォームにはテープで重ねて「KOREA」をかぶり、水泳

帽にもマジックで「KOR」を書かなければならない状況が起きた。このことで連盟幹部らが懲戒を受けたが、当時副会長だったパク理事長も2020年大韓体育会から3ヶ月資格停止処分を受けた。

ただし、パク理事長は懲戒後の裁判を通じて無効判定を受けたという立場を明らかにしている。パク理事長は〈ニュースミン〉との通話で「不当に懲戒されたと考え大韓体育会と訴訟をした。裁判所で無効の判定を受けた。候補者検証段階でスポーツ倫理センターの懲戒情報システムから履歴を発給され、懲戒がないことで検証を終えた」と話した。

続いて「悔しいと思った。選手や指導者に問題があれば、現場で活動を続けることはできない。現場経験を持っているだけに、誰よりもその過程をよく知っているので、(懲戒情報システムの運営も)うまくいくだろう」と付け加えた。

金ヒヨンス体育市民連帯執行委員長(元国家人権委員会スポーツ人権特別調査団長)は、「懲戒が無効になったとしても、スポーツ倫理センターの信頼性にマイナスになる部分にならざるを得ないが、人権業務を担当する機関長を政府が任命する時は、もう少し徹底的に検証する必要がある」と述べた。

スポーツ倫理センターの懲戒要請にもかかわらず、懲戒履行率は半分にも満たない

米国セーフスポーツセンターは懲戒不履行時に予算支援を中断する権限も

スポーツ倫理センターが体育界の人権侵害や不正を調査した後に行われる懲戒履行率も問題だ。センターは調査を終えれば、加害者に対する懲戒は直接行うことができず、体育会側に要請しなければならない。体育会が履行しないと強制力を増すことができない限界がある。

金ヒヨンス委員長は「倫理センターが大韓体育会に懲戒をしてほしいと要請すれば、体育会は競技団体にこれを伝達する。大韓体育会がその気になれば1件も履行しないこともありうる」と指摘し、実際2023年の国会国政監査でもこの事実を明らかにした。文化体育観光部によると、2020年9月から2023年11月までセンターが要求した懲戒249件のうち99件、39.8%だけが懲戒が行われた。

センターもこの問題を認知している。パク理事長は〈ニュースミン〉との通話で「最近統計を把握してみると懲戒要請をした時、処罰が弱まったり履行しなかった不履行率が49%程度だった。スポーツ倫理センターが懲戒権を持つことができるか法律検討をかなり長くしたが、競技団体に懲戒しなければならないという判決があり難しい状況」と話した。

それとともに「体育会長の影響力があるので、選手たちが申告自体をうまくできないという。それなら、スポーツ公正委員会に対する体育会長の影響力が及ばないように分離することが必要なことだ。7月22日、陳ジョンオ議員室とこの問題に関する討論会を準備している」と付け加えた。スポーツ公正委は各競技連盟、大韓体育会が運営する懲戒審議を担当する機構だ。

しかし、金ヒヨンス委員長は「スポーツ公正委員会に手を出すことは容易ではない。結局、スポーツ倫理センターに対する信頼、専門性を高めなければ難しいこと」とし「体育界が倫理センターの専門性を信頼できるよう統合が必要だ。米国のセーフスポーツの事例を参考にしなければならない」と提案した。

米国には2017年に自主的に管理、制裁を担当する独立した人権機構セーフスポーツセンター(us center for safesport)がある。セーフスポーツセンターは18年間、米国女子体操国家代表チームのチームドクターとして在職しながら、自身の地位を利用して数百人の若い選手を搾取し性暴行した別名「ラリー・ナセル事件」が2016年に世の中に知らされ設立された。

セーフスポーツセンターは、人権侵害の加害者に対して調査及び懲戒要求権に加え、懲戒要求を拒否したり、申告義務を履行しない組織に国家財政支援を中断させる権限がある。履行を強制できる権限を与えたのだ。反面、スポーツ倫理センターは懲戒不履行時にも制裁手段がないため、加害行為を確認しても被害者が現場を離れるほかはないという指摘が出ている。

スポーツ倫理センター、「期限内に事件処理率 90%まで上昇」

体育市民連帯、「人権侵害調査と捜査の志向点を異にすべき」

専門的な調査人材が不足しているのも問題だ。26日、故崔スクヒョン選手4周忌を迎え慶北星州郡追慕公園を訪ねたパク理事長は「そうでなくても就任以後ずっと努力している。文化体育観光部でも調査官を増やそうとしており、今年は事件の期間内の処理率が90%程度までかなり上がってきた」と述べた。崔選手の父親崔ヨンヒ氏は「スクヒョンが事件を担当した調査官が一つの事件だけを扱えないため、仕方なく時間が長くなると言っていた。早く調査して被害者、加害者を分離することが一番重要なことだが、そのような部分に物足りなさがある」とし、事件を早く調査することは肯定的なことだと評価した。しかし、事件の処理速度だけに集中してはならないという憂慮の声もある。調査過程で事件が外部に公開されれば被害選手がまた別の被害に遭うなどの問題を考慮すれば、人権的側面をさらに重要視しなければならないという指摘だ。

金ヒヨンス委員長は「人権侵害の調査と捜査は志向点が違わなければならない。倫理センターは事件処理件数を実績と見る慣行や事件処理期間を業務成果と見る慣行から抜け出す必要がある」として「被害者の中で倫理センターに受付後、被害事実が言論に公表されるなど2次被害問題で信頼できない状況もある」と話した。

出典：<https://www.newsmin.co.kr/news/104966/>

07 週間スポーツニュース

「ソンアカデミー人権省察」の契機に

<https://www.kado.net/news/articleView.html?idxno=1253089>

まな板にのせられたスポーツ体罰

<https://www.kyongbuk.co.kr/news/articleView.html?idxno=4013042>

ファン文化がスポーツに熱狂させる

<http://www.sjsori.com/news/articleView.html?idxno=69895>

運動と学業をなぜ並行するのか… 高校野球全盛時代が懐かしくなる

https://www.chosun.com/national/weekend/2024/07/06/OXOMCN5EGZBXLKDIFIXHW26W24/?utm_source=naver&utm_medium=referral&utm_campaign=naver-news

エクストリームスポーツを通じて南北分断の現実を体験する

<https://www.kmib.co.kr/article/view.asp?arcid=0020273467&code=61221111&cp=nv>

安山市でeスポーツフェスティバルが開かれる

https://www.newsis.com/view/NISX20240708_0002802018

「児童-スポーツリハビリ-舞踊」幅広く体系的に学ぶ

<https://www.hani.co.kr/arti/society/schooling/1148192.html>

スポーツ映像 37年ぶりに世界新・マフチク「ウクライナの名で！」

https://imnews.imbc.com/replay/2024/nwdesk/article/6615206_36515.html

スポーツ価値を高めるAI

<https://www.edaily.co.kr/News/Read?newsId=01161126638952552&mediaCodeNo=257&OutLnkChk=Y>

体育市民連帯オンライン 定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。

私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と
福祉実現のために努力しています。
皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための
体育市民連帯活動に強固な土台となります。
体育市民連帯会員として力になろうと
される方は下の口座に後援お願いします。

国民銀行 086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。

多くの関心をお願いします。

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳：佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com

週刊ニュースレターバックナンバー（資料室） <http://www.yg.jpn.org/sportscm/index.html>